

令和5年度ツキノワグマの出没状況等について

1 要旨

全国的にツキノワグマの目撃情報や人身被害が多発していることから、本県におけるツキノワグマの出没状況及び被害状況を報告する。

2 ツキノワグマについて

広島県に生息しているツキノワグマは、島根県及び山口県にまたがり広域的に生息しており、令和2年度に3県での生息頭数を調査した結果、767頭から1,946頭の間（中央値1,307頭）であると推定され、絶滅が危惧される危機的な状況からは脱している状況となっている。

一方で、これまで捕獲上限目安値を大幅に超える捕獲が続いていたことなどを踏まえ、令和4年4月に策定した第二種特定鳥獣管理計画において、捕獲上限目安値（3県で135頭）を引き続き定め、西中国地域個体群の安定的な維持と人身被害防止の両立を目指すこととしている。

3 出沒（目撃）状況

令和5年4月～10月末のツキノワグマの目撃件数は499件であり、平年並みの件数であった。
（過去10年間（4月～10月）における平均目撃件数509件）

（単位：件）

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年 間	648	1,219	682	483	—
4～10月	586	956	495	394	499
（参考） 堅果類豊凶 調査結果	豊作2種 並作3種 凶作1種	豊作4種 並作1種 凶作1種	豊作2種 並作4種 凶作0種	豊作2種 並作4種 凶作0種	豊作4種 並作1種 凶作1種

（注）目撃件数は、痕跡の発見件数やツキノワグマと推定される動物に係る住民からの通報件数を含む。

（注）ツキノワグマの主要な餌食物である堅果類（どんぐり等）の豊凶状況について、広島県、島根県及び山口県の西中国地域で参考指標として調査を実施。令和5年度は概ね豊作であったが、高標高域に生育するミズナラが凶作だった。

4 被害状況

ツキノワグマによる人身被害は、令和2年度に4件、令和3年度に1件発生しており、令和4年度及び令和5年度は発生していない。

（単位：件）

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人身被害	0	4	1	0	0

（注）令和5年度は10月末時点。令和3年度は庄原市、令和2年度は北広島町、庄原市、及び安芸高田市で発生。

5 本県におけるツキノワグマ出沒対策について

- ツキノワグマについては、平成6年度以降、環境省が狩猟禁止措置を講じているものの、近年、人とツキノワグマの軋轢が増加している。
 - このことから人身被害の回避のため、人の生活域や活動域を中心に、人身被害の防止を目的とした場合の捕獲については、許可を可能としているところである。
 - 更に出没時の被害の防止を図るため、市町と連携し、次の対策を実施している。
 - ・ 柿の木などツキノワグマを誘引する果樹等の除去
 - ・ ツキノワグマ出没時におけるパトロール、追い払いの実施
 - ・ 学校や地域を対象とした遭遇時の対処方法に関する学習会の開催
 - ・ 市町、警察等を対象とした出没対応時の安全確保に関する研修会の開催 など
- （参考）遭遇時の対処方法の普及啓発用パンフレット別紙参照



出没地域に住まれている方、
山菜・キノコ狩り・溪流釣り・
キャンプ・登山をされる方へ

ツキノワグマの被害を 防ぐために

ツキノワグマの分布範囲

西中国山地(島根県・広島県・山口県)に生息するツキノワグマは、西中国地域個体群として、他地域から孤立しています。かつては個体群の存続が危機的な状況になっていましたが、近年では生息数及び分布域ともに安定しています。



人身被害を防ぐために

ツキノワグマは人とばったり出会うと、自身や子グマを守るために攻撃することがあります。

クマがよく活動する時間帯

森で暮らすクマは昼行性ですが、人里へ下りて活動する時には夜行性になることが知られています。夕方や早朝に活発になると言われていますので、特に注意しましょう。

クマと出会わないために

クマは耳がよいので、山に入る場合は、鈴やラジオなど音が出るものを携帯しましょう。雨の日や沢沿いは音が伝わりにくいため、意識して大きな音を出しましょう。また、山菜採りなどではクマへの注意が散漫になるので気をつけましょう。

もし出会ってしまったら

▶クマがこちらに気づいていない場合

- 気づかれないように静かにその場から立ち去りましょう。

▶クマがこちらに気づいている場合

- クマとの距離が十分にある場合は、ゆっくりと後ずさりして逃げましょう。背中を向けて走って逃げると、本能的に追いかけてくる場合があります。

▶至近距離でクマに遭遇した場合

- 攻撃されそうになったら、両腕で顔や頭を覆い、うつ伏せになるなどしてダメージを最小限にとどめることが重要です。クマは一撃を与えた後すぐに逃げる人が多いとされています。



子グマを見かけたら

近くに母グマがいます。絶対に近づかないで速やかに立ち去りましょう。